

学習指導案

関西大学初等部 塩谷 京子

1. 教科・学年 : 国語科 第1学年

2. 単元名 : 本とともだちになろう

3. 単元について

(1) 単元の目標

<国語科の目標>

易しい読み物に興味をもち、探して読む。

場面の様子や人物の気持ちなどについて、想像を広げながら読む。

友だちに紹介したい本を選んで、教科書に示された観点で、紹介文を書く。

今までに読んだ本の中で好きな本を友だちに紹介する。

友だちの本の紹介でいいなと思うところを聞く。

<メディアリテラシーの目標>

同じタイトルの昔話を比べ、異なるテキスト(絵、文章、映像など)が存在することに気づく。

同じタイトルの昔話は数冊あり、それぞれに作者(制作者)がいることに気づく。

制作者の存在や意図に気づくための「基礎的気づき」を培う。

(2) 単元の概要

本単元は、主教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で読み方を学んだ後、図書館にある様々な分野の本を意欲的に読み、読んだ中からおすすめの本を選び友だちに伝える、という3つの内容で構成されている。教材文で読み方を学んだ後にある読書活動は、伝えるという次の学びの布石となっており、単に好きな本を読む時間としての扱いではない。

読書については、新学習指導要領「国語科」「読むこと」の内容の指導事項の中に「目的に応じた読書に関する指導事項」という記述がある。低学年においては、「楽しむためや知識を得るために、目的や必要に応じて、本や文章を選んで読むことを示している。」とある。さらに、「低学年においても、読む目的を意識して本や文章を選び、読書活動に関する見通しをもって取り組ませる必要がある。」と、明記されている。子どもが受け身の読書をするのではなく、自分で選び見通しをもって取り組むよ

うな読書活動を設定することは、指導者が常に心掛けておきたいことである。

低学年の読書と言えば絵本を読む子どもの姿がイメージされるように、多くの子どもは入学前から絵本に親しんでいる。しかし、読む本の分野、理解の程度においては個人差が大きい。

まず、子どもが読む本の分野は大きく2つに分かれる。ストーリーのある絵本を読む子と、恐竜や昆虫などの写真や絵のある本を手取る子である。前者には、想像力が豊かで、読み聞かせや一人読みを好む子が多く、後者には、好きな分野の体験や知識が豊富で、本を開けながら友だちと話をするを好むが多い。この年齢では、自分が好きな分野の本を手取り、その分野の本をひたすら読む傾向が強い。そのため、前者には、身の回りの事象への興味関心が低い子がいる。後者には、絵本の絵を追って読むだけで文字を追えない子もいる。子どもの個人差を生かしながらも、楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む読書活動が必要になる。

そこで、読む本の分野を広げるために、主教材である「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で読み方を学んだ後、動物が主人公の本を読む読書活動を設定した。主人公を選ぶことで、普段読まない分野の本を読むことが可能になるからである。動物が好きな年齢であることから、図書館にある動物が主人公の本を様々な分野から選び出し、動物別に配置した「おはなし動物園」コーナーを作る。そこから、子どもは読みたい本を選んで読むという読書活動を繰り返す。その際、読んだ本の書名・主人公・感想(記号で書く)を記録用紙に記入し、紹介したい本を選ぶときの資料として残しておく。

次に、お話の理解の程度も深めたい。お話の理解の程度が深まれば深まるほど、お話を楽しんで読むことができることから、ただ読書をするのではなく、子どもの理解を深める助けとなるような読書活動が必要になる。読んだ本の理解の程度を深めるために、「おはなし動物園」の学習後、お話の大体をつかむ読書活動を考えた。子どもがお話の大体をつかむことは、そのお話に対する理解が深まることにつながる。お話に対する理解に対応して、後の学習のねらいである「読んだ中からおすすめの本を選び、友だちに伝えることができる。」の到達度が高くなる。しかし、お話の大体をつかむことは、低学年の子どもにとって簡単なことではない。初めて聞くお話や先が見えにくいお話、登場人物が多いお話などでは難しく、流れが掴みやすいお話や聞いたことのあるお話などは、例え1年生でも楽しく取り組むことができる。

そこで、多くの子どもが入学前から親しんでいる昔話をとりあげ、お話の大体をつかむ読書活動を設定した。昔話は語りで伝わってきたものであるため、お話の大体をつかみやすい構成になっている。また、多くの作者による絵本が出版されていたり、

短い時間で見ることができるテレビ番組やDVDがあつたりするなど、昔話は多様なメディアで普及している。子どもがどこかでふれたことのある身近な学習材であることも、昔話を選んだ理由である。

さらに、小学生になると、自分で絵本を手にとって読むようになる機会が増えることから、同じ昔話のタイトルであってもちょっとしたお話の違いに気づく子ども出てくる。日本の昔話だけでなく、世界にもたくさんの昔話があることに目が向く子どもいる。

そこで、本單元では、お話の大体をつかむことに加え、同じタイトルの絵本でもお話の展開や結末などが異なるテキスト(文章、絵など)が存在することを気づかせたい。また、それぞれのテキストには作者(制作者)がいることに気づくことも可能になる。これらの気づきは、自分が聞いてきた昔話しか知らない子どもにとって驚きでもあり、他の絵本も読んでみたいという読書意欲にもつながる。最近では、ひとつのタイトルに対し5冊ほどの昔話はすぐに手に入る。実物の本の表紙を見ると、読んでみたいという気持ちが起きやすく、ちょっとした違いを見つけながら読むようにもなるだろう。

こうした学習の過程を通して、テキストには制作者の存在や意図があることに気づくための「基礎的気づき」も、本單元で培いたいと考えている。

(3) 単元の計画

次	時	学習のねらい ・ 主な活動	指導上の留意点	評価の観点
第1次		全文を読んで、物語の大体をつかむことができる。 (教科書教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」)		
	1時 2時	・よかったところ、好きなところに、線を引きながら読み発表しあう。	黒板に文章を拡大して提示し、どのように線を引いたらいいのかを示す。 線を引いた文を、友だちに伝える時間を作る。 よかったところ、好きなところに線を引きながら読んでいる。	
	3時 4時	・線を引いたところを声に出して読んだり、誰が何をしたという言い方で話したりする。	一人で音読する、となりの席の友だちに読む、班の友だちに読む、全体の前で読むなど、多様な読み方を体験させる。 「だれが、どうした」という言い方で話すためのワークシートを用意する。 「だれが、どうした」おはなしなのかをつかんでいる。	
第2次		図書館にある様々な分野の本を、意欲的に読むことができる。		
	5時	・動物が主人公の本を選んで読むことで、はば広い分野の本に親しむ。	動物が主人公の本を選んで、ブックトークや本の紹介を行う。 図書館に「おはなし動物園」コーナーを作り、動物が主人公の本を動物別に置く。 「おはなし動物園」の読書カードを用意する。 すきな動物のおはなしを選んで読んでいる。	

次	時	学習のねらい ・ 主な活動	指導上の留意点 評価の観点
	6時 本時	・同じタイトルの昔話を比べ、異なるプロットが存在することに気づく。	絵本、DVDなど、複数のメディアを用意する。 おはなしの大体をとらえ、「だれが、どうした」おはなしなのかをつかんでいる。
	7時	・日本の昔ばなしや、動物が主人公の本を読んだり聞いたりする。	昔ばなしコーナー、動物園コーナーを作り、好きな本を選んで読む環境を作る。 昔ばなしコーナーには、同じタイトルで筆者が異なる昔話の本を用意する。 「昔話」の読書カードを用意する。 本を選び、読んだり聞いたりしている。
第3次		読んだ中からおすすめの本を選び、友だちに伝えることができる。	
	8時	・読んだ本の中から一番おすすめの本を選ぶ。 ・おすすめの本を3文で話す練習をする。	読書カードの中からおすすめの本を選ぶ。 教科書の話し方をもとに、3文で話すときの話し方を確認する。 3文目には、だれがどうしたお話なのかを書く。 だれがどうしたおはなしなのかを意識して文章を書いている。
	9時	・おすすめの本を友だちに紹介する。 ・おすすめの本の紹介文を書く。 ・紹介文を読んで、手にとってみたくなった本を読んでみる。	隣の席の友だちと練習をする。 グループのなかでおすすめの本を紹介しあう。 3文を意識して、紹介している。 第8時で話したことを文章にする。 紹介文は、図書館に掲示する。 紹介文を読んで、読みたい本を選んでいる。

4. 本時について (6 / 9)

(1) 本時の目標

同じタイトルの昔話を比べることを通して、それぞれに異なるテキスト (絵、文章) や作者が存在することに気づく。学習を通して、昔話に興味をもつ。

(2) 本時の展開

時間数	学習活動	指導上の留意点	評価
20分	<p>1. 学習の方向をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『さんまいのおふだ』のお話を知っていますか。」 ・「誰が出てきますか。何が出てきますか。」 ・「DVDを見てみましょう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつどこで「さんまいのおふだ」と出会ったのかなど体験を聞く。 ・DVD「さんまいのおふだ」を視聴させる。 ・タイトル、登場人物、おふだ、だれがどうしたお話なのかを確認する。 	
10分	<p>2. 読み聞かせを聞きながら、何が同じで何が違うのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『さんまいのおふだ』の絵本を読みます。」 ・「登場人物は同じですか。」 ・「おふだは、同じですか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本「さんまいのおふだ」の読み聞かせをする。 ・タイトル、登場人物、おふだ、だれがどうしたお話なのかについて、類似点と相違点を確認する。 	<p>同じ「さんまいのおふだ」でも、登場人物やおふだの色などが異なることに気づく。</p>

時間数	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	<p>3. 読み聞かせをした以外の「さんまのおふだ」の絵本を見て、複数冊ある理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『さんまのおふだ』は、まだまだあります。』(といながら、5冊ほど見せる) ・(1冊をとりあげ)「これは今読んだ絵本と比べてどうでしょう。」 ・「どうして、そう思いますか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者が異なる「さんまのおふだ」を5冊ほど見せる。 ・こんなにたくさんの「さんまのおふだ」があることに目を向け、驚きや疑問をもたせる。 ・同じタイトルの「さんまのおふだ」でもテキスト(絵、文章)が異なることの理由として、それぞれの本に文章や絵を書いた人がいることに気づく。 	<p>同じ「さんまのおふだ」でも、絵本により作者がことなることに気づく。</p>
5分	<p>4. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きょうの学習でわかったことを『わかったことをかきましようカード』に書きましよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業でわかったことを書くための「わかったことをかきましようカード」を配布する。 	

5. ワークシート

わかったことをかきましようカード 1年組 () せんせいから
--

< 児童が記述したワークシート >

わかったことをかきましようカード 1年組 () りまいの おふたご をよみました。 りまいの おふたご は さくし が ちが うし おは ち も ち が った から おも しろい と おもった。
--

せんせいから	わかったことをかきましようカード 1年組 () だ い め い は 同 じ だ け ど さ く し や 中 み の え や 文 が ち が う っ て い う こ と が あ か り ま し た 。 い ろ い ろ わ か り た い な 。
--------	---

せんせいから	わかったことをかきましようカード 1年組 () あのね、りまいの おふたご は、し ゃ だ け ど な り ま い が ち が う し か い た ひ と の な ま え も ち が う 。
せんせいから	

わかったことをかきましようカード 1年組 ()

さんまのおふだをみてびっくりしま
した。びでおは くりひろいへいこって
ていふにびしんはしなきりにいって
いいました。まよんでみくにいで

せんせいから

わかったことをかきましようカード 1年組 ()

しゃくしゃかちがうた"レナでな
かみもちがうことがあかりま
した。

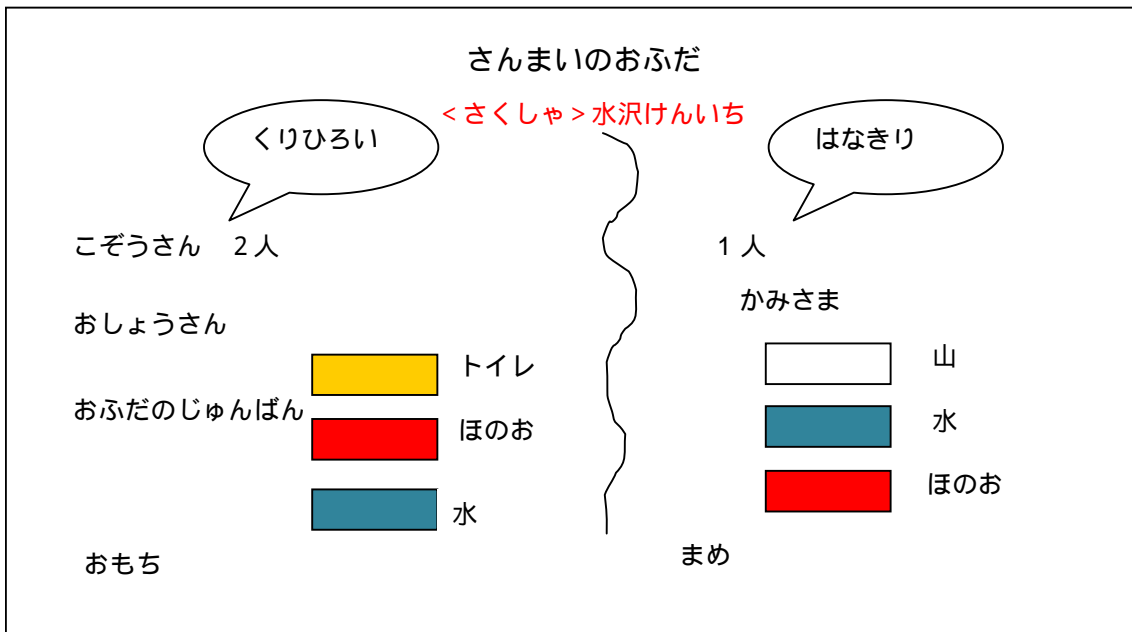
わかったことをかきましようカード 1年組 ()

三まいのおふだは、つくった人に
よってなかみがちがうたことが
あかりました。

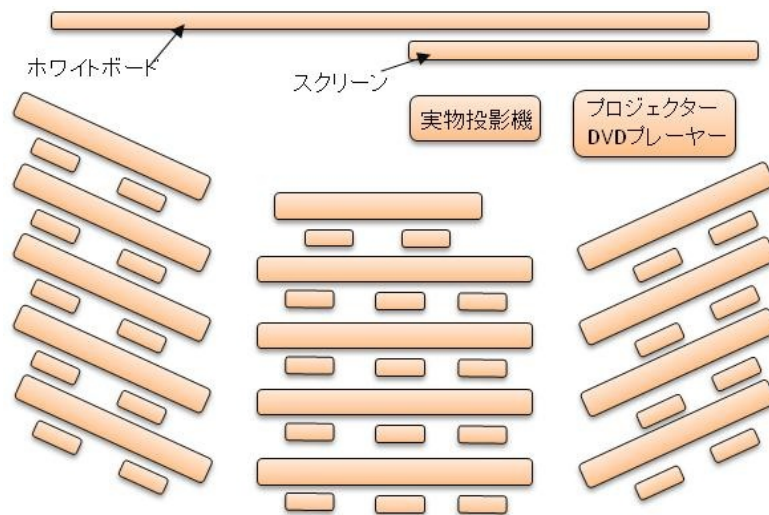
せんせいから

6. 板書・教室配置図

< 板書 >



< 教室配置図 >



< 参考資料 >

授業で使用した「さんまいのおふだ」のあらすじ

映像（DVD）

二人の小僧さんが、和尚さんに三枚のお札をもらい、山へ栗拾いに行った。日が暮れて、そこで出会ったおばあさんに泊めてもらうが、それは恐ろしい鬼だった。腰に縄をつけられて、小僧さん二人は便所に行くが、黄色のお札にお願いして代わりに返事をしてもらい逃げた。鬼が追いかけてきたが、赤いお札で火事を、青いお札で大川を出し、やっとお寺へ逃げ帰る。和尚さんは、術で小さくなった鬼を餅と一緒に食べてしまった。

絵本(水沢謙一 再話)

小僧が山に花切りにでかけた。夜になってしまい、小さな家の白髪のおばばに泊めてもらうが、それはおっかなげなおにばさだった。腰に縄をつけられた小僧が便所へ行くと、便所の神様が三枚のお札をくれ、代わりに返事をして助けてくれた。おにばさが追いかけてきたが、小僧は、白い札で大山を、青い札で大川を、最後に赤い札で大火事を出して、やっと寺に逃げ帰る。和尚さまはおにばさと術比べをして、小さな豆になったおにばさをガリガリかじって飲んでしまった。

「三枚のお札」の絵本と映像（DVD）リスト

	タイトル/著者等	お話の特徴				
		登場人物	登場人物の行動	お札をくれた人	お札と順序	
絵本	さんまいのおふだ 水沢謙一 再話 梶山俊夫 画 (福音館書店)	おしょうさん	まめにしておば ばをたべる	べんじょ のかみさ ま	しろいふだ	おおやま
		こぞう	はなきりにいく		あおいふだ	おおかわ
		しらがのおば ば			あかいふだ	おおかじ
	さんまいのおふだ 松谷みよ子 文 遠藤てるよ 絵 (童心社)	おしょうさん	なっとうにして もちにつつんで たべる	おしょう さん	おふだ	べんじょのは しらにさしこ む 「おらのかわ りになってけ る」
		こぞっこ	くりひろい		おふだ	おおかわ
		ばあさま、 やまんば	「おまえのおば さまだ」		おふだ	すなやま
	さんまいのおふだ 千葉幹夫 文 早川純子 絵 (小学館)	おしょうさん	まめつぶくらい に小さくなった やまんばをもち にはさんでたべ る	おしょう さん	おふだ	べんじょのは しらにはりつ けた 「おらのかわ りにへんじを してください」
		こぞうさん	くりひろい		おふだ	大きなすな山
		やまんば			おふだ	大きな川
	三まいのおふだ おざわとしお 再話 かないだえつこ 絵 (くもん出版)	おしょうさん	池に石をなげこ んでやまんばを たいじした	おしょう さん	おふだ	べんじょのと びら 「へんじして くれ」
		こぞう	たきぎとり		おふだ	大川
		ばあさん			おふだ	すな山
三まいのおふだ 長谷川摂子 文 きむらよしお 絵 (岩波書店)	おしょうさん	なっとうまめに してたべた	おしょう さん	おふだ	おおかわ	
	こぞう	おひがんのはな とり		おふだ	おおやぶ	
	ばあさ			おふだ	おおかじ	
映像 (DVD)	三枚のお札 (15分) こども にんぎょう げきじょう 日本 編 (NHKエンターブ ライズ)	おしょうさん	小さくなくても ちの中に入った おにをたべた	おしょう さん	きいろいお ふだ	べんじょ
		こぞうさん2 人	くりをひろう		あかいおふ だ	火事
		おに			あおいおふ だ	大川

関西大初等部の授業では、映像「三枚のお札」及び、絵本「さんまいのおふだ（水沢謙一 再話）」の視
聴・読み聞かせを行い、その他の絵本は表紙のみを児童に見せた。